

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和4年11月)

～旅行関連のプラスとインフレによる悪影響が混在～

- 景気ウォッチャー調査・11月調査の近畿地域の結果は、現状判断が49.4と前月比で4か月連続の上昇(+0.5ポイント)となった。ただし、好不調の目安となる50は5か月連続で下回っている。一方、先行き判断も45.7と2か月ぶりの上昇(+1.0ポイント)となった。
- 足元の景気については、前月からの全国旅行支援や入国規制の緩和により、関連業界での需要の増加が続いている。特に、旅行支援ではホテルや旅館、旅行代理店などで需要が増えたほか、入国規制の緩和ではインバウンドの増加が続き、ホテルなどでの宿泊関連のほか、百貨店でも客足の増加が進んでいる。
- 一方、物価やコストの上昇による悪影響も続いており、様々な業種から厳しい声が上がっている。スーパーや家電量販店といった小売関連からは、消費マインドの低下や節約志向の強化が進んでいるとの声が多く、製造業や建設業といった企業取引関連からも、価格転嫁の遅れなどが指摘されている。
- 先行きについては、入国規制の緩和によるインバウンドの増加を予想する声が多く、旅館やホテル、百貨店を中心に期待が高まっている。ただし、ホテル等からは、全国旅行支援が期限を迎えるのに伴い、その後の需要減を懸念する声も多く上がっている(同制度は延長となる見込み)。
- 加えて、物価の上昇に対する警戒感は強く、小売関連を中心に不安の声が上がっているほか、企業関連からは価格転嫁が難しくなるとの声が多い。円安はやや落ち着きつつあるとはいえ、コストの上昇、価格の上昇に対する不安は、業種を問わず高まっている。
- 一方、注目されるのは新型コロナの感染第8波に対する見方であり、感染拡大には警戒しつつも、「消費者の反応は、以前のように厳しいものとはならない」との見方が少なくない。

「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

| | | | |
|--------|---------|--------------|---|
| 家計動向関連 | 良くなっている | 百貨店(外商担当) | ・以前からの国内客の復調に加え、インバウンド客も増加傾向が顕著となっている。インバウンド用の観光バスも久しぶりにみられる。 |
| | | 百貨店(服飾品担当) | ・11月に入り、新型コロナウイルス感染症関連による入店制限もなくなり、海外からの観光客も増え、売上は都心店舗を中心にアップしている。特にラグジュアリー商材が売上を大きくけん引し、ジュエリーやバッグも2けた増となるなど、値上げの影響もなく売上は伸びている。また、防寒商材も徐々に動き、気温の変化とともにコート類にも動きが出ている状態である。後半からはクリスマス商材の展開が始まり、ここ数年は体験できなかったクリスマス商戦を今年は体感したいという客の意向で、クリスマスグッズも好調に動いている。 |
| | | 百貨店(サービス担当) | ・今月も従来の傾向に変化はなく、国内の観光客の増加や、入国制限の緩和による外国人観光客の増加で、高級ブランドの高額品の購入が順調に伸びている。また、在宅ワークの増加などで、今年もおせちやクリスマスケーキの予約が、高額品を中心に好調な推移となっている。 |
| | | 都市型ホテル(フロント) | ・全国旅行支援の効果に加え、インバウンドも増加しており、急激に稼働率、単価が上がっている。 |

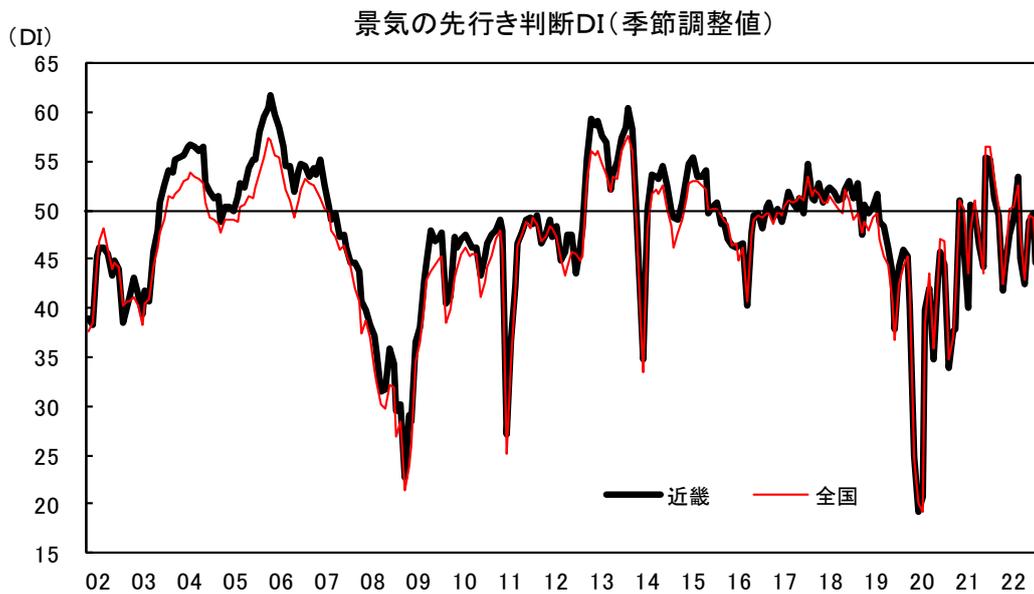
| | | | |
|---------|--------------|--|--|
| 家計動向関連 | やや良くなっている | 一般小売店 [鮮魚] (営業担当) | ・少しインバウンドが増え、店頭売上のほか、店舗全体の集客も増えている。 |
| | | 百貨店 (企画担当) | ・前月の11日以降、免税売上が増加傾向にある。中国からの観光客の売上には変化がないものの、その他の地域は、香港、台湾、韓国を中心に2019年の数値を上回りつつある。外商売上も前年を上回っているが、外商を除く国内売上は前年並みである。 |
| | | 百貨店 (宣伝担当) | ・10月下旬以降、訪日外国人による免税売上が急増している。円安の影響からか、大量に買うケースが多く、まだ以前の水準には至っていないが、8割程度は回復している。 |
| | | スーパー (店長) | ・外国人客が増えており、客単価も上がっている。 |
| | | 都市型ホテル (販促担当) | ・インバウンドの利用が大幅に増え、朝食の利用も約8割が訪日旅行者というケースもある。訪日客は、中国以外の韓国や台湾、東南アジアのほか、欧州からも多い。平日でも満室で販売を止める日があるほか、朝食に時間調整が必要となる日も増えている。問題点としては、客室の清掃や飲食サービススタッフの人員確保が挙げられる。 |
| | | その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当) | ・新型コロナウイルスの感染第8波の発生が報じられているが、団体客やインバウンドは引き続き増加傾向にある。 |
| | 変わらない | 百貨店 (店長) | ・全国旅行支援の影響で人流が増え、コト消費が上向いている。その一方、インバウンドが戻ってきても、以前の爆買の中心であった中国の動きがないほか、様々な商材価格の上昇でモノ消費にも需要が向かわない。この状況は3か月前と比べて悪化している。 |
| | | 百貨店 (売場マネージャー) | ・インバウンドの回復傾向と観光客の増加により、一定の業績は確保できているが、国内客の売上はまだ前年を下回っている。 |
| | やや悪くなっている | 百貨店 (売場主任) | ・9～10月は売上目標を上回ったが、今月は目標を下回る見込みである。全国旅行支援による消費のシフト、新型コロナウイルスの感染第8波、インバウンド需要の伸び悩みなどが不振の要因に挙げられる。物価の上昇もあり、消費者の財布のひもは以前よりも固くなっている。 |
| | | 百貨店 (マネージャー) | ・3か月前と比べて、国内の中間層の現金客については、ファッション関連の勢いがみられない。また、原料価格の高騰による食品分野の苦戦が顕著であるため、富裕層とインバウンド需要を除く売上は、前年並みとなっている。 |
| 悪くなっている | 一般レストラン (店主) | ・キャンペーンの効果で客は増えており、外国人客も多くなっている。ただし、大型店や大型レジャー施設、特定の目的地に客が集中し、商店街は閑散としている。 | |
| 雇用 | 良くなっている | 人材派遣会社 (管理担当) | ・新型コロナウイルスの感染拡大への不安は残るが、海外からの訪日客の入国規制が緩和され、国内でも行動制限がないことから、ホテルや観光業界も活気を取り戻しつつある。それに伴い、求人数も増加傾向にある。 |

「感染第8波」関連のコメント(先行き判断)

| | | | |
|--------|----------------|---|--|
| 家計動向関連 | やや良くなる | 一般小売店 [野菜] (店長) | ・新型コロナウイルスの感染第8波が発生したとしても、政府が今の方針を変えなければ、景気は少し良くなる。ただし、2～3か月後の物価上昇の状況次第であり、インフレが進めば、一般客の買物は控えめになる。 |
| | | 都市型ホテル (スタッフ) | ・新型コロナウイルスの感染第8波の影響で、キャンセルが少しずつ増えている。1～2月の予約は様子見の状態で、仮予約のままとなっている。宿泊は全国旅行支援がいつまで続くかによって、大きく数字が変わってくる。予定どおり12月20日までであれば、苦戦を強いられる。一方、レストランは好調で、中規模の団体客の需要も戻っている。 |
| | | 都市型ホテル (総務担当) | ・新型コロナウイルスの感染が拡大しても、行動制限は要請されず、いずれ感染状況も低水準となる。今後は海外からの観光客も順調に増え、外食に伴う飲酒も増えると予想される。 |
| | | 都市型ホテル (客室担当) | ・新型コロナウイルスの感染第8波の状況は気になるが、ウィズコロナの意識が高まり、旅行需要は回復傾向にある。 |
| | | 旅行代理店 (店長) | ・新型コロナウイルスの感染第8波の状況にもよるが、海外旅行の間合せが徐々に増えているため、期待したい。 |
| | | 観光名所 (企画担当) | ・新型コロナウイルスの感染第8波が到来しているが、行動制限はないため、全国旅行支援などの効果もあって、来場者が増え始めている。ただし、いつまで続くのかが心配である。 |
| | | 遊園地 (経営者) | ・当初から、新型コロナウイルスの新規感染者数の増減に反比例して、業績が変動する傾向に変化はない。感染が拡大傾向にある現状は、業績はやや停滞気味である。ただし、客が消費行動を極端に抑制する傾向は弱まりつつあるように感じられ、以前ほど悲観的には捉えていない。 |
| | | その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当) | ・新型コロナウイルスの感染第8波が到来しても、政府は移動制限や水際対策の強化を行わないほか、新型コロナウイルスの治療薬の承認など、コロナ禍の収束に向けた動きが出てきている。 |
| | 変わらない | 商店街 (代表者) | ・新型コロナウイルスの感染第8波の影響で、購買心理が上がってこない。 |
| | | 百貨店 (営業推進担当) | ・新型コロナウイルスの感染第8波も落ち着き、専門店の商材の動きも活発になるものの、消費の多様化と原材料価格の高騰により、現在の悪化傾向が続くと予想される。 |
| | 百貨店 (売場マネージャー) | ・新型コロナウイルスの感染第8波の影響は、これまでのように大きくならないと予想しているが、インバウンドや観光客が売上を支える状況に大きな変化はない。価格の高騰も購買意欲に大きな影響を与えており、客には支出の内容を吟味する傾向があるため、個人の買物における優先順位は高くならない。 | |

| | | | |
|--------|-----------------|---|---|
| 家計動向関連 | 変わらない | 百貨店（宣伝担当） | ・インバウンド売上は好調が続くと予想しているが、国内売上は値上げの影響が大きく、力強さには欠ける。新型コロナウイルス、インフルエンザ共に、感染が徐々に拡大していることから、全体的には今月の状態から大きく伸びることはない。 |
| | | 百貨店（マネージャー） | ・当分、近隣圏の購買動向には変化がないと予想されるものの、新型コロナウイルスの感染第8波の状況次第で悪化につながる可能性は非常に高い。インバウンドを中心とした来街者の増加は明るい材料であるが、インバウンドの主力は飽くまでも中国である。まだ中国からの観光客は回復が見込めず、近い将来で状況の変化は考えられないため、全体に及ぼす影響は軽微にとどまる。 |
| | | スーパー（販売促進担当） | ・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあるが、自粛疲れや慣れもあり、外出の自粛やまとめ買いといった、前年のような状況にはならない。一方、商品価格は今後も値上げが予想されるため、必要な物以外は買わない傾向が続くと推測される。 |
| | | 一般レストラン（店主） | ・全体的に客は増えているが、新型コロナウイルスの感染状況に左右される。感染第8波の影響が予想されるなか、個人商店は何らかの企業努力が必要である。 |
| | | その他飲食〔ファーストフード〕（店員） | ・新型コロナウイルスの影響が一時収束しかけたが、また感染第8波が発生したため、来客数の動きが変わる。 |
| | | タクシー運転手 | ・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が顕著であるが、以前と比べると影響はそれほど大きくない。イベントなども、規模は縮小しながら開催されている。 |
| | | その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員） | ・円安の流れがようやく落ち着き、企業業績も安定している。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ情勢の影響もあり、個人消費の落ち込みが続けば、景気は悪化する可能性が高い。 |
| | | その他レジャー施設〔球場〕（経理担当） | ・新型コロナウイルスの新規感染者数は再び増加傾向にあるなか、プロ野球シーズンが終了し、12～2月は多くのコンサートの開催の予定である。なお、3か月後の状況は不透明であり、全体的には現状と変わらないと予想している。 |
| | | 住宅販売会社（総務担当） | ・政府の需要喚起策もあり、人の流れが戻ってきている反面、新型コロナウイルスの感染拡大も気になる。 |
| やや悪くなる | やや悪くなる | 百貨店（売場マネージャー） | ・現在も原油価格や原材料価格の上昇や、円安傾向もあり、食料品を中心に買い控えの傾向がみられる。年末年始にかけても、この傾向は続くと考えられる。さらに、新型コロナウイルスの感染第8波の到来も予想もされるため、今後の景気はやや悪くなる。 |
| | | 乗用車販売店（経営者） | ・中国の新型コロナウイルスの感染状況がひどくなり、ウクライナ紛争も激化している。円安や新型コロナウイルスの新規感染者数の増加、政情不安といった悪い材料が多く、そのいずれも収束する気配がないため、今後も景気は良くならない。 |
| | | 観光型ホテル（経営者） | ・全国旅行支援の延長が発表されたものの、新型コロナウイルスの感染第8波の影響次第であり、まだ客は様子見を続けている。いずれにしても、10～11月のような動きを期待することはできない。 |
| 企業関連 | 変わらない | 金融業（副支店長） | ・新型コロナウイルスの感染第8波が来ており、今後2～3か月は受注の改善が難しい。 |
| | | その他サービス業〔店舗開発〕（従業員） | ・新型コロナウイルスの感染第8波の足音が徐々に聞こえ始めたなか、年末にかけては人流の増加に伴って売上も回復する。ただし、年明け以降に新規感染者数が急増し、医療機関の機能が落ち始めると、自然に行動の自粛が始まり、消費が冷え込むと予想される。 |
| | やや悪くなる | 繊維工業（団体職員） | ・当産地の需要期の関係もあるが、年始以降の新型コロナウイルスの感染第8波による影響が懸念される。 |
| 雇用関連 | やや良くなる | 建設業（経営者） | ・物価の上昇に加えて、新型コロナウイルスの感染第8波の到来が懸念されるなか、当地では雪の予報も出ており、ますます景気が冷え込む可能性がある。 |
| | | 人材派遣会社（管理担当） | ・今後も訪日客の増加や、国内観光客の需要増加が見込まれ、徐々に上向くことが予想される。ただし、新型コロナウイルスの感染第8波やウクライナ危機といった不安要素が多いことも否めない。 |
| | 変わらない | 職業安定所（職員） | ・新型コロナウイルスの感染第8波が到来しているが、それほど影響は出ていない。今後は円安の状況と物価上昇の影響で、先行き不透明な部分はあるが、景気は回復してくる。 |
| | | 職業安定所（職員） | ・円安で海外からの観光客の購買意欲は高まっており、秋の観光シーズンは持ち直した。今後は、冬のインフルエンザや新型コロナウイルスの感染第8波が懸念材料である。 |
| | その他雇用の動向を把握できる者 | ・円安や物価の上昇に対し、中小企業を中心に販売価格への転嫁が進まないという声が多く、先行きの不透明感は強い。また、新型コロナウイルスの感染第8波について、具体的な影響は出ていないものの、今後は懸念する声が出始めている。 | |

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

| | | 20年 | | 21年 | | | | 22年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 現状判断 | 近畿 | 42.6 | 36.0 | 33.2 | 43.7 | 48.5 | 31.4 | 34.7 | 46.2 | 47.5 | 35.3 | 42.7 | 54.1 | 57.3 | 58.7 | 40.3 | 39.3 | 48.4 | 50.6 | 52.1 | 51.0 | 39.2 | 42.0 | 48.2 | 48.9 | 49.4 |
| | (全国) | 44.2 | 35.3 | 31.9 | 41.7 | 48.5 | 39.0 | 37.8 | 46.5 | 48.0 | 34.9 | 42.3 | 55.1 | 56.8 | 57.5 | 37.9 | 37.7 | 47.8 | 50.4 | 54.0 | 52.9 | 43.8 | 45.5 | 48.4 | 49.9 | 48.1 |
| 先行き判断 | 近畿 | 33.8 | 37.6 | 37.8 | 51.0 | 46.0 | 40.0 | 50.5 | 49.7 | 46.3 | 44.3 | 55.4 | 55.1 | 51.3 | 49.4 | 41.9 | 44.2 | 47.5 | 49.2 | 53.4 | 45.0 | 42.4 | 48.9 | 49.7 | 44.7 | 45.7 |
| | (全国) | 34.7 | 36.9 | 40.4 | 51.0 | 50.2 | 43.5 | 48.0 | 51.1 | 47.3 | 43.5 | 56.6 | 56.6 | 53.2 | 50.3 | 42.5 | 44.4 | 50.1 | 50.3 | 52.5 | 47.6 | 42.8 | 49.4 | 49.2 | 46.4 | 45.1 |

※季節調整値